

平成17年12月9日

長野県知事  
長野県教育委員会委員長

田中 康夫 様  
宮澤 脩 様

## 高校改革プランに関する要望書

長野県野沢南高等学校  
生徒会会長 佐々木史也

私たち野沢南高校生徒会は、6月24日に発表された「県立高校再編整備案」について、「整備候補案」にあがった他の高校との交流会や、高校生の集会に参加して意見交換し、「改革プラン」に対する学習を深めてきました。また、教育委員会の説明会にも参加し、私たちに「思い」を伝えてきました。しかし、説明会では時間的制約もあり、私たちの考えや心情を充分お伝えすることができませんでしたので、野沢南高校生徒会として以下のような要望をまとめました。是非ご検討いただき、要望をお酌み取りいただきますようお願いいたします。

### 1 野沢南高校を現状のまま残してほしい。

野沢南高校は学習・クラブの両立をめざし、豊かな人間性を培うことのできる高校として、地域から期待を集める学校です。特に、在校生の93%は佐久市・南佐久地区在住者であり、佐久地区にとってなくてはならない学校だと考えます。(佐久市69%、南佐久24%)ここ数年、学校の方針も「大学をめざす」ことに転換し、本年度は40%の大学進学希望者になっています。また、卒業後は佐久地域に戻り、地域で働く卒業生が多いことも特徴です。

野沢南高校での学校生活は、生徒同士仲が良く、先生方との距離感も無く、クラブ活動も盛んで、とても過ごしやすい学校だと感じています。クラブ加入率は79.6%であり、特色あるクラブとして東信地域唯一の新体操部と、県下唯一の日本舞踊部があります。また、文化祭で行われる合唱コンクールは、地域・保護者の方が200人以上来校し、大変質の高い合唱だと評判です。

定時制の生徒数は67名で、定員に対する充足率は40%になっています。生徒の多くが入学前に不登校を経験し、定時制の少人数の中で不登校が改善され、定通大会や生活体験発表会で活躍しています。野沢南高校は、佐久地域の中で存在意義があり、後輩が全日制・定時制の生徒として入学し、学習活動やクラブ活動、生徒会活動、文化祭を活発に行うことができるよう、現状のまま残していただくことを強く要望します。

### 2 多邸制・単位制高校の設置について慎重にしてほしい。

私たちは、今まで多部制・単位制の導入そのものに反対し、「白紙撤回」を求めて多くの活動を行ってきました。しかし、第12回の推進委員会において、第2通学区へも導入方向での論議がされました。

野沢南高校の名が挙がった理由の一つに、交通の利便性があげられていますが、決して交通の便がよい学校だとは言えません。最寄り駅はJR中込駅から学校まで徒歩で20~30

分分かり、小海線の本数も1時間に上下1本ぐらいしかなく、とても便利だとは言えません。通学路も歩道や街灯などの整備状況がよくなく、特に校門前の道路は狭く、普通乗用車のすれ違いにも困難が生じています。学校の敷地自体も狭く、駐車するスペースが校内にはほとんどありません。野沢南高校は交通の利便性がいいという条件に全く適合しないと思います。現在第2通学区にはすでに通信制高校が3校あり、18年度にはさらに1校が開校します。そのような中で第2通学区への導入がどうしても必要ならば、通学の利便性・安全性を考慮して、明るい通学路とバス、タクシー、電車など、さまざまな交通手段を確保することのできる都市部への設置を新設を含めて検討すべきだと考えます。

### **3 地域の声を聞き、審議に充分時間をかけてほしい。**

高校改革プランは一学校だけの問題ではなく、長野県民全体の問題です。地域の声を聞き、禍根を残さないような納得できるプランができる議論がされるべきだと思います。しかし、地域の方々の中には、野沢南高校の名前が挙がったことは知っていても、県内に多部制・単位制高校がないため、どのような学校であるかイメージできない人も多くいます。在籍する私たちも、6月24日の公表まで何も知らない状態でした。このような状況では、県民全体の間での議論など起こりようがありません。もっと県民の方々にはいい点だけでなく、不安と思われる点や欠点なども詳しく説明し、県民の意見をよく聞き、充分時間をかけて議論して頂きたいと思います。特に主人公である私たち高校生の意見や気持ちを聞いてほしいと思います。

### **4 これから高校生になる中学生と保護者の皆さんに説明し、意見を聞いてほしい。**

平成19年度から高校改革プランが実施されるならば、その年の入学生は現在の中学2年生に当たります。また現在の中学3年生も、高校改革プランの該当校に入学し、2年生に進級した時点で、その課程の後輩がいなくなることが想定されます。その生徒たちはこの事態をどう感じ、どう捉えているのでしょうか。私たちが高校へ入学し、生活する中で後輩がほしいと思ったのと同じように、きっと彼らも後輩がほしいと思うはずで、今、中学生も不安と疑心にとらわれていることは容易に想像できます。

特に現在の中学2年生は、行きたいと思っていた高校がなくなっていることが考えられます。仮に、野沢南高校が多部制・単位制に転換した場合、全日制普通科高校へ進学したいと考えている生徒たちは、わざわざ遠くの高校まで時間とお金をかけて通学しなければなりません。これは生徒本人だけでなく、家庭にも相当な負担を強いることとなります。

11月2日に発表された野沢南高校への志願者数は、前期選抜が昨年比一76人、後期選抜が一84人になっています。私たちは、この数字を「中学生・保護者の不安や動揺」と、「野沢南高校を現状のまま残して欲しい」というメッセージと受け止めたいと思います。昨年に比べ大きな落ち込みは、明らかに校名公表の影響を受けていると考えます。県教育委員会の責任において、県民の皆さん、特に中学生とその保護者の皆さんに対して、高校改革プランについて十分に説明し、その不安な気持ちを取り除き、楽しく充実した中学校生活を送れるよう配慮していただきたいと思います。